

文 献

1. Klincksieck et Valette : Code des Couleurs (1908)
2. Ridgway, R. etc : Color Standards and Color Nomenclature (1912)
3. 佐々木西二 : 醸学, 20, 383 (1942)
4. Shih, Y.K. : Lingnan Science J., 15, 3, 365(1936)
5. Thom, C. and Church, M.B. : The Aspergilli (1926)
6. Wehmer, C. : Centralb. f. Bakt., 2, 2, 150 (1896)
7. Kita, G. : Centralb. f. Bakt., 2, 41 (1914)
8. 中沢亮治, 武田義人, 岡田董勝, 霜三雄 : 農化, 10, 135 (1934)
9. 中沢亮治, 武田義人, 末松勝利 : 農化, 10, 135 (1934)
10. Kita, G. : Centralb. f. Bakt., 2, 37, 433 (1913)
11. 根平武雄 : 醸工 27 : 26 (1949)
12. 武田義人 : 農化, 10, 1305 (1934); 12, 853 (1936); 13, 63, 148, 507 (1937)

○ Martin 著北米産變形菌誌 (服部廣太郎)

此書は本年 4 月 North American Flora 第 1 巻第 1 冊として刊行された G. W. Martin 氏著 Myxomycetes なる 1 篇であるが、其分類形式が多少従來のと異なる点があるので、其梗概を紹介することとした。本誌はグリーンランド、北米大陸の北部、中部、南部、パナマ共和国及西印度諸島の一部を包含する地域に、産することが知られている變形菌の種類に限定して記載したものであるから、欧洲・亜細亞其他の地域に産しても未だ前掲地域内で発見されない諸属は、凡て除外してある。全篇に採扱した科属の排列順序は下記の通りである。

綱 Myxomycetes

第 1 亜綱 Exosporeae

第 1 目 Ceratiomyxales

第 1 科 Ceratiomyxaceae——属 *Ceratiomyxa*

第 2 亜綱 Myxogastres

第 2 目 Liceales

第 1 科 Liceaceae——属 *Licea*, *Tubifera*第 2 科 Reticulariaceae——属 *Alvisia*, *Lycogala*, *Dictydiaethalium*,*Reticularia*, *Enteridium*第 3 科 Cribrariaceae——属 *Lindbladia*, *Cribraria*, *Dictydium*

第 3 目 Trichiales

第 1 科 Dianemaceae——属 *Margarita*, *Dianema*, *Prototrichia*

第2科 Trichiaceae—属 *Perichaena*, *Arcyodes*, *Arcyria*, *Oligonema*,
Trichia, *Hemitrichia*, *Calonema*

第4目 Stemonitales

第1科 Echinosteliaceae—属 *Echinostelium*

第2科 Collodermataceae—属 *Colloderma*

第3科 Stemonitaceae—属 *Amaurochaete*, *Brefeldia*, *Elaeomyxa*,
Diachea, *Enerthenema*, *Stemonitis*, *Comatricha*, *Clastoderma*,
Lamproderma, *Macbrideola*

第5目 Physarales

第1科 Physaraceae—属 *Fuligo*, *Badhamia*, *Physarum*, *Craterium*,
Physarella, *Cienkowskia*, *Leocarpus*

第2科 Didymiaceae—属 *Diderma*, *Mucilago*, *Didymium*,
Lepidoderma, *Leptoderma*

第1目中 *Ceratiomyxa fruticulosa* に就いて記載した項中で、従来之れの変種として数多く知られているものを、何れも環境の如何に因つて発現した發育型であつて、変種として認めるべきものでないことを述べている。これは筆者が拙著那須産変形菌類図説の中に、記して置いた考と略ぼ一致する。而して各科に配合された諸属の移動の著しいものでは、従来の *Arcyria* 科、*Tubifera* 科、*Lycogala* 科、*Lamproderma* 科、*Perichaena* 科を廢して、其所属の各属を他科に併合した。例へば *Tubifera* 科の *Tubifera* を第2目第1科へ、*Alwisia* を同目の第2科へ送り、*Lycogala* 科の *Lycogala* を第2目第2科へ、又 *Trichia* 科の *Prototrichia* を第3目第1科へ移し、*Lamproderma* 科の *Echinostelium* を別に1科1属とせし如きも其例である。

又或る属を他属に編入替へしたものもある。例へば *Liceopsis* を *Reticularia* に、*Trichamphora* を *Physarum* に、*Ophiotheca* を *Perichaena* に、*Heterotrichia* を *Arcyria* に転入せしめ、*Cornuaria* 属の者を *Margarita*, *Dianema*, *Perichaena*, *Oligonema* の諸属に分配し、*Lachnobolus* 属は成立しないものと認めて、既知の各種を *Perichaena*, *Arcyria*, *Hemitrichia*, *Fuligo*, *Amaurochaete*, *Arcyodes* に分属せしめた。以上の中 *Arcyodes* 属は本誌が新たに採択した属であつて、之には *Licea incarnata* を当て、*Lachnobolus congestus* は之が Synonym と認定した。又 *Orcadella*, *Kleisobolus*, *Hymenobolina* の諸属も成立せざるものと認めて、此属のものを凡て *Licea* 属に併合せしめた。新たに採択された属に第4目第3科に *Elaeomyxa* 属と云ふのがある。之には *El. miyazakiensis* (Emoto) Hagelst 1種が挙げられている。此基本種は江本義教氏が先年霧島山麓で採集して *Diachea miyazakiensis* と命名して発表したのが、小畔四郎氏も亦、殆んど同時季に同地方で発見し、未発表ではあるが之に *Diachea nigrella* と命名せられたものである。其後 Hagelst 氏が同種を Ontario 地方で発見し

新属と査定して学名を改訂したものである。其他従来東北米に産すると知られた *Schenella* 及び *Lamprodermopsis* の 2 属のものは、猶將來の検討を要する疑問種であるとして削除してある。

○日本種子植物集覧第一冊の出現を報ず (久内 清 孝)

植物に関係あるものにとり、学名及び其出典の穿さくは絶対的に必要なことでありながら、その実行には、多大の労力をかたむけなければならず、従つて、相当な時間を空費することを覚悟しなければならない。この労力と時間を節約するためには、簡単にその目的を果し得る、辞書様のものがあれば至極便利である。そのため、従来故松村任三博士の帝國植物名鑑 3 卷が、永年植物学者の机上からはなれなかつた。恐らく今迄の人でこの本の厄介にならなかつた人はなからう。しかし、時代の進歩と學問の進展による必然の結果として、永らく親んで來たこの書も、一般の要求を充すには充分でなくなつたので、之に代るべき書の出現が期待されつつも、今日までその曙光も見られなかつたのであつたが、東大助教授前川文夫同原寛両博士は、敢然この大業を企図し、裸子植物、單子葉植物、離瓣花類等を前川氏、合瓣花類、離瓣花類を原氏が各々分担し、多年に亘り銳意論著に従事中のところ、今回まづ、原氏の分担する部門の前半即ちイチヤクソウ科からオホバコ科に至る 33 科が完成された。今これを通覧するに、著者の良心的判断に基く適切な学名が採択され、かつ其下に必要な異名も並記され、現段階に於ける適当な名称が一応確立された次第で、この間著者の相遇された困難とそれを克服した努力に対しては多大の敬意を表する次第である。またこの出版を決断した出版者の英断に対しても同様である。尙続卷の出現につき、一層の努力を吾人は著者と出版者に期待する。(岩波書店 A5 判 300 頁 属名及和名索引 34 頁)。

讀者 諸 氏 へ

本誌第 23 卷は本號を以て完結とする。

第 24 卷は本誌を創始された牧野富太郎先生の米壽を御祝する記念号として 39 篇に上る論文を載せ、本年 12 月に発行の予定である。

Notice

Vol. 23 of this Journal is concluded by this number.

Vol. 24 will be published in December 1949 as a jubilee volume commemorating the 88 th. anniversary of Dr. T. Makino.